今月の販促

安達昌人
公開経営指導協会
協力コンサルタント

■新店舗オープン(1)

茨城県水戸市から岩間街道を車で走って十五分、本年五月に五階建の洒落た共同ビルがオープンした。その一画に、「肉のイイジマ」がある。調理場も含めて約十三坪。

この見和・見川地区は、かつて水戸市郊外のベッドタウンとして開発され、人口が増えるにしたがって商店も定着し、第二種の大型店も現在数店を超えている。今や地域の商店会ではシールなど共同事業にも力をいれ、いわゆる燃えている商店街といえる。

肉のイイジマもその有力な一軒。常陸牛を重点商品として高い売上げを誇ってきている。ビルが竣工し、仮店舗からこの新店舗に移ったが、この不況下にあって日商五十万円を楽に超える好成績。週末は六十数万円に達する。やはり商品に一つのしっかりした方針があることが、お客の共感を呼ぶのだろう。ケースも名産牛にふさわしい高級品を使い、風格のある店内である。

それと、もっとも好評なのは自家製の惣菜だ。大型店と違って、大皿に盛り計り売りする。よく調理を研究して種類も多く、お客が途絶えることがない。デリカコーナーを格子の衝立で仕切っているが、このインテリアが雰囲気づくりに役立っている。一見に値する店舗といえるだろう。

■新店舗オープン(2)

筆者の仕事場のすぐ近くの化粧品店が新装オープンした。角店の三角形の売場の狭いスペースだが、一気に明るくなった。お客がもっとも好きなのは、こうした照明、接客ともに明るい雰囲気の店である。買い上げ客にプレゼントがいろいろ用意されているが、ゆでたまごを一つずつ進呈するのも楽しい。同店が手配りしたのが図のようなはがき。ワープロの印刷物が多い中で、こうした手書きの文面は温かい。必要な条件をうまく書きこんだ紙面である。改装後、お店もいっそう繁盛しているようだ。「いかがですか、ご成績は?」「おかげ様で」という答え。返事はこうこなくてはいけない。

■元気のいい商店街(1)

朝市を実施する商店街が減少した中で、やはり結束のいい街はこうした共同行事が盛んだ。これも筆者の近くの「関原不動商店街」は燃えている商店街

POPの例

人気の高い自家製惣菜コーナー

格子の仕切りのある風格ある店内